

上田市教育委員会4月定例会会議録

1 日 時

令和6年4月18日（木） 午後3時00分から午後3時48分まで

2 場 所

上田市役所 202・203会議室

3 出席者

○ 委 員

教 育 長	峯 村 秀 則
教育長職務代理者	安 達 永 眞
委 員	森田 小百合
委 員	大久保 恵子
委 員	木 口 博 文

○ 説 明 員

小野沢教育次長、龍野教育参事、町田教育総務課長、宮原教育施設整備室長、長田学校教育課長、上原生涯学習・文化財課長、和根崎上田城跡整備担当政策幹、久保田人権同和教育政策幹、小須田学校保健給食課長、清水第一学校給食センター所長、田中中央公民館長、大森川西公民館長、金田上田図書館長、坂部上田市立博物館長、小林丸子地域教育事務所長、池田真田地域教育事務所長、若林武石地域教育事務所長、緑川交流文化芸術センター副館長、山寄上田市立美術館長

1 あいさつ

それでは定刻となったので4月の定例会を始める。

令和6年度に入り、3週間が経つ。4月4日の上田市の小・中学校の入学式には、委員の皆様、所属長の皆様にも告示をしていただいた。忙しい中ありがとうございました。

今のところ、各学校とも順調なスタートを切っており、困りごとなどの相談も報告も届いていない。

上田市の小・中学校のホームページを毎日見ているが、子ども達も皆、張り切って令和6年度をスタートしている様子。

小学校では、1年生の給食が始まり、子ども達が大変時間をかけて準備したり、美味しそうに食べている様子がホームページに載っていた。

中学校も4月の中旬に、ほとんどの学校の3年生が修学旅行を終えた。コロナの時は、目的地を変更して県内が多かったが、今年は全ての学校が奈良や京都などに行くことができた。それもホームページに載っているが、本当にみんないい顔をしていた。

社会教育関係だが、4月12日にことぶき大学とことぶき大学大学院の入学式があった。学びに非常に積極的な皆様が入学をされ、意欲に燃えてスタートをしたわけだが、上田市は子ども達から大人、それからお年寄りまで、非常に勉強熱心ということを思うので、学校教育も社会教育の方も頑張っていかなければと感じている。

それでは、はじめに事務局職員の紹介をお願いしたい。

2 事務局職員紹介

小野沢教育次長より異動職員紹介

3 協議事項

峯村教育長

大変申し訳ないが、次第にある協議事項は、都合により次回の定例教育委員会で協議していただくこととなったので御承知いただきたい。

4 報告事項

(1) 令和6年度サントミューゼ事業の主催者名義使用及び事業計画について

(交流文化芸術センター・上田市立美術館)

○資料1により緑川交流文化芸術センター副館長説明

交流文化芸術センター副館長の緑川です。よろしくお願いします。

サントミューゼは今年、2014年10月の開館から10周年を迎える。今年度は、10周年記念

イヤーとして、開館当初から継続して取り組んでいる事業に加え、祝祭感ある事業を企画し、自主事業については10周年記念事業として取り組んでいく。

資料2をお願いしたい。

サントミュージゼの自主事業については、基本理念である育成に基づいて実施し、主催を上田市及び上田市教育委員会とさせていただいていることから、事業内容について御説明させていただく。私からは交流文化芸術センター事業について、続いて、美術館事業について美術館長から説明する。

はじめに、交流文化芸術センターの令和6年度の事業については、お配りした別紙1の資料とリーフレットのとおりに計画している。

こちらの事業について、上田市と上田市教育委員会が主催者として連名で表記されるので、御了承をいただきたい。特に教育委員会に関係する事業を中心に説明させていただくので、資料にお戻りいただきたい。

資料「2 上田市交流文化芸術センターと教育委員会の連携について」

(1) 芸術家ふれあい事業「クラスコンサート」

こちらは市内全小学校の5年生を対象として、音楽室等で行うプロの演奏家による体験型のコンサートである。子ども達の新しい創造力を育むことを狙いとして、クラス単位で実施している。

(2) 芸術家ふれあい事業「地域ふれあいコンサート」

公民館などで気軽にクラシック音楽にふれられる機会を提供するもので、主に地域住民の皆様を対象に実施する。

(3) 芸術家ふれあい事業「ダンサーによる特別授業」

こちらはダンサーが学校に出向いてワークショップを実施するもの。小学校3、4年生を対象に、クラス単位、体育館等で実施する。

(4) ニッセイ名作シリーズ鑑賞事業

ニッセイ劇場が全国各地で展開しているオペラや人形劇など幅広いジャンルの公演を鑑賞する事業。今年度は9月5日木曜日に小学校4、5年生を対象に2回の公演が予定されている。

(5) 劇団四季「こころの劇場」

今年度は、先ほどのニッセイ名作シリーズの鑑賞事業に加え、劇団四季の「こころの劇場」の鑑賞も予定している。劇団四季による日本全国の子ども達に演劇の感動を届けるプロジェクトで、本年度は上田市でも公演していただけることになった。11月11日月曜日2回の公演を予定している。対象は6年生で、ニッセイ名作シリーズと併せ、より多くの児童の皆さんに鑑賞の機会を提供できる予定。

主な連携事業は以上である。

今年度も1年間育成を基本理念とし、文化芸術振興のために取り組んでまいりたいと思うのでよろしくお願いします。

山寄館長

続いて、資料2の3上田市美術館の事業について説明する。

公立博物館である美術館は、開館からこれまでと同様に、育成を理念に教育および学術の発展に資するとともに、魅力ある質の高い鑑賞事業や想像力や発想力、感性を育む学びの場を提供する教育普及事業を進めることにより、人、文化、まちを育み、地域の文化振興に寄与するよう努めていく。

実施する事業については、(1)～(4)の通り。

それでは別紙2の事業計画を御覧いただきたい。

今年度の特徴としては、自主事業を10周年記念事業として取り組んでいく。

続けて、鑑賞事業(1)主催企画展を御覧いただきたい。小さくて見えにくくて申し訳ないが連とあるのは、他の所属や外部団体等との連携事業である。

最初の、「マームとジプシー・藤田貴大線に宿る/点を辿る」は、記載にあるように、これまでホールで講演やワークショップを実施している演出家の藤田貴大さんとのコラボレーションが実現し、複合施設であるサントミューゼならではの企画となっている。

次の、「特撮のDNAin信州上田展」は、民間との共同主催の事業となっており、お互いに負担金を出し合って開催するもの。デジタルのない時代に造形や撮影に工夫を凝らして、映像を制作した歴史を紹介することで、展覧会を御覧になった方の創造の可能性や、創作意欲を育むきっかけとなればと考えている。

併せて、子どもアトリエ事業とのコラボ企画として、実際に映画の特撮を担当したカメラマンを講師に迎え、特撮を体験する夏休み特別講座を実施します。

サントミューゼの10周年、撮影映画の70周年、昨年11月公開の映画「ゴジラ-1.0」のアメリカアカデミー賞受賞などメモリアルが重なり、さらに夏休みということもありますので、大いに盛り上がることを期待している。

5番目の「上田の仏像展」は、生涯学習・文化財課が平成28年から実施している仏像の悉皆調査の成果を展覧会として地域の皆様や上田市を訪れる方々へお披露目も兼ねて、この地域の仏教文化との関わりなどを知っていただくことを目的に、生涯学習・文化財課、市立博物館、信濃国分寺資料館と連携して開催する。

展示数は、約80点を予定しており、その中には国指定の重要文化財の8点が含まれている。

さらに、その8点のうち2点は、上田市の姉妹都市である鎌倉市の建長寺からお借りする。文化庁の指導をいただきながら、昨年からようやく国指定の文化財を展示できるようになった。

本展覧会も事前に文化庁との調整がまだまだ必要ではあるが、環境をしっかりと整え、予定の展示ができるよう努めてまいる。

鑑賞事業については以上である。

教育普及事業については、御覧の通り昨年度同様の事業を継続して行う。

お手元の展覧会の年間カレンダーも御覧いただきたい。

以上、令和6年度は、サントミューゼで10周年の記念として、注力して事業を進めるので、委員の皆様にも更なる御支援、御協力をお願いします。

峯村教育長

交流文化芸術センターと上田市立美術館の今の報告について御質問、御意見あるか。

はい、大久保委員

大久保委員

10周年ということで、大変素敵な企画がたくさんあり、本当にありがとうございます。

2つあるが、上田市交流文化芸術センターと教育委員会との連携事業について、できるだけたくさんの地域の方や小学生の参加をしていただきたいが、中学生の参加もできれば御検討いただけないかなと思う。多感な時期を迎えている中学生のみなさんも、こういった文化芸術に触れることで感じるものがたくさんあると思う。

もう1点は、先ほど仏像展を企画されているということで、本当にこれも素晴らしいと思う。事業として調査研究を進めていただいていることを市民の皆さんに知っていただくよい機会になると思う。この他、仏像だけに限らず文化財をいろいろ調査していると思うので、そういったことをしているということをぜひ、広報物や何かの機会で結構なので、こういう活動をしているということを周知して、もっと広く市民にお知らせしていく方法を考えていただきたい。

峯村教育長

御要望ということでよろしいか。

大久保委員

はい。

峯村教育長

ほかにはいかがか。はい、お願いします。

安達委員

子ども達や地域の人に文化を根付かせていくという方向で地道に取り組んでいただき、大変ありがたいと思う。

10年というのは、文化を育てていくとか、子どもを育てていくという見方をすると、あまりにも短すぎると自分では思う。

ひとつお聞きしたいが、私も何回かサントミュージゼに行くのだが、よく見るのは、図書館のように施設内の横にある椅子で一生懸命勉強している子どもの姿がある。それももちろんとてもいいと思うが、やはり、あの何か音楽のところにしても美術のところにしても、そんな催し物をやっている時には、その香りがあるが、それを一歩離れると全くそういう、あの香りがしない。やはり、まだ美術や音楽などの芸術というか、演劇だとか、そういうものがまだ根づいていないかなという感じが自分の中にはある。

ゲストの願っている方向に施設全体が展開されているのか、それと、これからもっとどんな方向にもっていこうとしているのかというビジョンが見えてくるとありがたいなと思って意見した。

峯村教育長

それでは今のことについてお答えいただけるか。

はい、緑川副館長。

緑川副館長

はい、御意見ありがとうございます。

委員がおっしゃるように、やはりこういった教育は、10年では短いのかなという感じがしているが、10年続けてきたことによって根付いてきたものも僅かずつはあるという感触は持っている。

例えば、学校へ出向くというようなコンサート。初めは皆さん一体どんなものが来るのだろうというような、学校にとってもそういった感じだったが、今は喜んで受け入れてられている。あと5年生になったらこのコンサートが聞けるということで、楽しみにしているお子さんがいる様子も伺える。

地域のコンサートでは、学校で聞いたお子さんが家に帰って、その様子を話して、家の方と一緒に今度は地域の公民館のコンサートに来てくれる。そしてさらには、サントミュージゼのリサイクルに来てくれるというような流れも出始めてきた。

市民の皆様が、日々、文化を感じられるという状況をつくるというのが私どもの使命だと感じているので、引き続き、アウトリーチ含め施設の方でのリサイクル、展覧会等、皆様に上田市の文化を感じてもらえるような事業に取り組んでまいりたい。

御支援、御協力をよろしくお願いします。

峯村教育長

はい、山寄館長

山寄館長

緑川副館長から申し上げた通りだが、事例を少し紹介させていただきたい。

この10年に渡り、子どもアトリエで公立の幼稚園、保育園などをクラス単位で受け入れを行ってきた。しかも、市の庁用バスを利用して、定期的に募集を行い、応募してもらう形だが、だいが根付いてきて、毎年とても楽しみにしてくださっている。

また、展覧会を開催した際は、近隣の学校にはなってしまうが、小学校や中学校が鑑賞授業として、クラスや学年単位でまとまって見に来てくれている。そこで学芸員と一緒に児童・生徒たちが作品について感じたことを話して鑑賞している。少しずつだが、そういったところで、教育機関と連携が取れてきて根付いてきているのではないかという感触がある。

峯村教育長

はい、ありがとうございます。

そのほかに御質問、御意見があれば。はい、木口委員。

木口委員

はい。美術館の方の事業になるが、U30のキャリア支援講座というのがあるが、この辺は単独事業なのか。それとも、市の雇用促進みたいな担当部署が関わっているのか。

峯村教育長

はい、山崎館長。

山崎館長

このU30-キャリア支援講座は、私どもの単独事業である。

ひとつは、美術館の学芸員の仕事というのがどういうものか若い方に伝わらないというところがありまして、まちなかキャンパスのコーディネーターが、「そういうことを知りたいと思っている学生がいる」ということで私どもと繋いでくれて、それを機に、何をやったらいいのか何年か模索した結果、「ビジュツのシゴト講座」を始めた。

そのため、今後も連携等は考えていないが、今、美術館がやっている事業で全国大学版画展というのがあり、全国の文系の大学から選抜された作品を一堂に会して提案するというものがある。その展覧会を開催することにより、全国の美術系の大学の先生方と繋がる機会があり、その中でも、せっかくそういう繋がりがあるので、そういう方向を目指す学生達がもしあれば、こういう仕事も美術系の大学のその先にこういう仕事もあるというようなことなど、そういったことが近しく感じられるようになって思っている。

それほど多く人数が集まってはいないが、10人ぐらいの参加者で行っている。

峯村教育長

はい、木口委員。

木口委員

今の話だと「一般向け」と書いてあるが、メインのターゲットは高校生や大学生あたりをイメージしている講座ということではよろしいか。

山寄館長

その通りで、学生達の中でも大学生になると、いろいろな年代が含まれており、最近では20代を超えている場合もあるので、そういった方も含めて若者達をというイメージでいる。

峯村教育長

ほかにはいかがか、よろしいか。

ありがとうございました。

それでは報告事項(2)から(12)までは説明はないが、この内容について御質問や御意見があればどうぞ。

森田委員

はい。人権施策のところで、この冊子、非常に課題をいろいろ網羅されていると思う。

特に、目次のところで第4章の「8 インターネットによる人権侵害」や「9 性の多様性」というものは、昨今の大きい新たな課題として、すごく急増している社会課題になると思う。その部分でどのような政策だとか、現状の課題をキャッチしているのか、具体的な取組などがもしあれば、聞かせいただきたい。

上原生涯学習・文化財課長

久保田人権同和教育政策幹が欠席しているので、私のわかる範囲の話をさせていただきます。

子ども達の中では、SNSを使った形での誹謗中傷など、深刻な人権に関わる問題が発生しており、私どもの方では、学校向けで、リーフレット等を作成して、インターネットの使い方や家族とともに考える機会を作っていきたいことから配布している。

子ども達におけるこのインターネットの利用に関する人権侵害というものは、大きな課題だと思っております。

また、今はやはり、同和教育の問題でもWeb上で同和地区に関することが公開されるなど、新たな人権侵害の事象も最近多く見受けられている。これに関しては、法務局と連携を取りながら対応している。

森田委員

人権の対策や課題のところで、すごく幅広い案件が収集されてくると思う。一番やはり

重要なのは、相談したい案件をどこの機関窓口に持っていくのか、どこと連携するか、このような課題はどごに協力を求めるだとか、パスするだとかそういう交通整理ができるような部門になっていただくのが一番心強いのかなと思う。

上原生涯学習・文化財課長

市長部局の人権共生課と教育委員会の生涯学習・文化財課で連携をとりながら、取り組んでまいりたい。

峯村教育長

お願いします。

ほかに御意見は。

大久保委員

はい。今のこの「上田市人権施策基本方針」の冊子は、どのような場所に置いて、どのような方に配布になるか。

上原生涯学習・文化財課長

私の段階で承知していないが、広く周知は必要であるので、Web上でも掲載はしているが、自治会関係など、個人というよりは、組織に向けて配布している。紙ベースはやはり避けるようになっているので、Web上で見ていただくような説明をしている。

大久保委員

読ませていただいて、ひとつ思ったのが、上田市の人権に対する行政の芯の部分で、基本的な考え方になると思うので、これは学校の教材としてもいいのかなと思った。

学校がどう扱うのか、それは学校ごとに分かれるとは思いますが、子ども達にも上田市はこんなふうに入権について考えているんだということを知ってもらうためにもいいのかなと思った。それがまず一点。

あと、相談体制の充実というのが一番最後に出ているが、読んだ人が何かあればすぐ相談できるよう、冊子に電話番号など連絡先が記載されている方がよいのではないかと思った。

今回なかったので、今後、記載を加える方向で検討して欲しい。以上。

峯村教育長

はい、上原課長

上原生涯学習・文化財課長

申し訳ありません。すでに完成しているため、ここに追加は難しいが、Web上では、相談する場所、連絡先も含めてわかる形で対応したい。

峯村教育長

はい、ほかにはいかがが。安達委員。

安達委員

ひとつ目として、例えば14ページの上から8行目に【2】とあり、そのページの真ん中あたりに【3】、【4】とあるが、これ何のことか目次から本文に入るまで探したが、説明がない。そうしたら、これは最後の用語解説を見なさいということだった。

それがわかるまでえらく時間がかかったので改善して欲しい。

次に、昔の時代背景を描いたドラマでは、「女のくせに弁護士になるなんて」という事が平然と当たり前に使われている。でも、その時代から何十年も経った現在において、そんなことを言ったら逆にハラスメントになるという時代。

だから、必ずこういう人権の問題も今はこうだが、100年経った時に、大きく今とは変わっていることもあるかもしれない。

そういうところを見据えて、今自分が何をすべきか考える必要がある。今ここにあるこの困難を何とかしよう、何とかしようとそこだけに固定してしまうと、とても苦しくなるので、この先に絶対にみんなが力を合わせていけば楽しいところがあるんだというところを見せて欲しいなと思っている。

峯村教育長

御意見として伺いすることでよろしいか。

ほかにはいかがが。

大久保委員

(6)出前ときめきのまち講座、こちらのパンフレットだが、これだけの項目に対し、要望があれば説明に行きますということは、本当に素晴らしいと思う。

ただ、このパンフレットの講座名を見ると、書いてある内容が短い。これを見てお願いすることとなるので、もう少し、この講座名をキャッチーなものにして欲しいと思った。

私は、環境保護とかそういうことに興味があるので上田市は何をやっているのかと思って見たが、最初探せなかった。多分、これじゃないかというのが「松くい虫対策について」とかだったので、もう少し、タイトルもこれだけの文字数でやるので本当に大変なんだろうと思うが、タイトル付けを考えてもらえれば、きつともっと出前講座の要

望も多くなると思うし、このような場で市民の皆さんと行政が交流を図れるいい機会にもなると思うので、検討して欲しい。

峯村教育長

御意見として伺いすることによろしいか。

ほかになにかあるか。

安達委員。

安達委員

私もこの出前講座をお願いしたことがあるが、参加してすごいと思った。ありがたいしいいなと思った。だからこの良さをもっと多くの市民の皆さんに伝わるよう、聞いてみたいと思う人が増えるためには、どうやって周知させていくかが重要。

実際は、どのぐらいの団体から声がかかっているのか教えて欲しい。

峯村教育長

はい、上原課長どうぞ。

上原生涯学習・文化財課長

まず、講座名については、確かに行政ならではの言葉で大変恐縮だが、来年度以降は、その辺も踏まえながら検討していきたい。

また、いかに市民の皆様方に利用していただくかについては、行政の取組を知っていたくいい機会なので、特に計画などを作った際には、市民に情報発信するような機会として、各課と調整してメニュー化していきたい。

また、生涯学習・文化財課や公民館では、特製プログラムという形で、どのようなことを聞きたいのかなど、御相談いただき、御希望に応じた形でメニューにないものも対応している。

この特製プログラムは、結構多く利用があるので、先ほどの件と含めて利用促進のため検討していきたい。

大久保委員

この108がこの特製プログラムですね。これもすごくいいと思う。

上原生涯学習・文化財課長

私どもが担当課との橋渡しをしていくという相談体制もそうだが、申請者側が何をしたいのか、何を勉強するのかを聞き取りながら、しっかり担当課に繋げていくという形をとっている。

利用状況は、具体的な数字を持っていないが、やはり自治会の皆様方が多く、最近では、防災関係で、自分たちがどのような取り組みができるかといったプログラムへの申し込みが結構多い状況。

コロナ明けになって、利用者も増えている。

引き続き、多くの方に利用していただけるよう取り組んでまいりたい。

峯村教育長

よろしいか。ほかにはいかがか。

森田委員

もう一点、続けて申し訳ないが、基本的には対面で社会教育、生涯学習は、出向いて顔を見ながら話を聞きたいというところもあると思うが、Webでのやり方というのも、今の時代に合った取り組み方として、今後も検討していただきたい。

確かに対面はいいが、やはり高齢化したりとかもあり、会場に出向く難しさもあると思う。素晴らしい講座がこれだけあるので、記録に残して、受講したい方に合った時間帯や日にちで見れるような利活用もされると、より一層、講座の意義が出てくると思うのでぜひ前向きに検討していただきたい。

峯村教育長

御要望ということでよろしいか。

ほかにはいかがか。木口委員。

大久保委員

(7) 戦争遺跡説明看板の設置についてだが、今回このような形で看板を直していただいて、今こういった戦争遺跡はどんどんなくなっていると思う。

何十年前くらいは、各家にも、例えば取っ手のない引き出しというか、茶箆箆があったり、鉄を収集したということや、必ずしも戦場になっていなくても、戦争が身近にあったということを知るものって多分あったと思うが、今はそういったものがどんどんなくなっていると思う。こういったことをきちんとまとめて整理して、皆さんに周知していただこう、というようなことはすごく大事だと思うし、学校教育の中でも戦争を学ぶ時の教材として、こういった身近な戦争遺跡を実際に見学することはとても大切だと思う。今後も戦争遺跡の整理だとか、看板の見直しということはきちんと続けていって欲しいと思った。

峯村教育長

はい。ありがとうございます。

ほかにはいかがか。よろしいか。

事務局から何か連絡報告があるか。よろしいか。

それでは、4月の定例会を閉じます。ありがとうございました。